

国語 第6学年 使える言葉にするために 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：意味を知るだけの漢字を、自分の文章で使える語へ変える。例文と自作文を比べ、漢字の意味と使う文脈が合うかを確認する。B(1)オの学習として、選んだ漢字の意味、自分で使った文、相手の読みを受けて直した記録。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、文章を読み返し、選んだ漢字が内容に合うかを確認して表現を直しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確認する支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)オの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：選んだ漢字の意味、自分で使った文、相手の読みを受けて直した記録を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)オに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：つまり児童にはどんな支援をするか。

返し：意味を説明できても自分の文章で使えない、辞書の例文を写すだけになる。これに対して、児童の既習漢字から使い慣れていない語を選び、辞書の用例の内容を口頭で説明してから別の場面の文を作る。用例の名詞だけを替えず、自分の伝えたい事実を先に決める。〔知識及び技能〕(1)エとB(1)オを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「その漢字を使うと、伝えたいことが正確に伝わりますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)オに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：選んだ漢字の意味、自分で使った文、相手の読みを受けて直した記録は紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)オの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)オで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：この教材で、誤りやすい点をどう確かめるか。

返し：意味を説明できても自分の文章で使えない、辞書の例文を写すだけになる。児童の既習漢字から使い慣れていない語を選び、辞書の用例の内容を口頭で説明してから別の場面の文を作る。用例の名詞だけを替えず、自分の伝えたい事実を先に決める。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「その漢字を使うと、伝えたいことが正確に伝わりますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)オに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

